

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	文学部
大項目	5 学生の受け入れ
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 明記されている文学部アドミッション・ポリシーを受験生に広報する。	→大学・学部広報誌、WEBサイトへの各種入試アドミッションポリシーの掲載数、オープンキャンパスなどでの広報活動	C	C	C	B	B
2. 関西学院大学「障がいのある学生受け入れ方針」に則り、障がい学生の受け入れと教育を着実に遂行する。	→文学部が毎年受け入れ、支援している障がい学生数およびその支援内容	B	B	B	B	B
3. アドミッションポリシーの徹底という観点から、文学部の一般入試・各種入試のあり方を総合的に再検討し、改善する。	→一般入試・各種入試内容の具体的な検討経過報告および現実に実施した入試方法の改善項目	C	C	C	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 大学や学部がWebサイトやオープンキャンパスでの配布物によってアドミッション・ポリシーを示し、求める学生像を明らかにしてきた。2011年度よりネット上での広報はさらに広範囲に展開されている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 入試広報という性質上(特に受験生の関心をひく問題ではない)、アドミッションポリシーを受験生に浸透させることには限界がある。しかしMastery for Service等の言葉は、ある程度広まっており、面接試験等で耳にすることもしばしばである。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か アドミッション・ポリシーを受験生に広めることに意味があるならば、オープンキャンパスにおいてなんらかの特別な広報活動を行うことが効果的であろう。	☆
		その他	
			☆
目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 関西学院大学「障がいのある学生受け入れ方針」に則り、様々な障害を持つ学生を受け入れ、キャンパス自立支援課の協力を得て、きめ細かな支援体制を構築している。2013年度には、たとえば、聴覚障害をもつ学生にノートテイクをつけたり、視覚障害の学生に定期試験の際に別室で拡大した試験用紙を使用させるなどのサポートを行っている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 申し出のあった学生に対しては、細やかな支援を行っており、基本的には、現在の体勢を踏襲すればよいであろう。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 上述のように、基本的には現在の制度に問題はないが、今後、それを強化する必要があると思われる。	☆
		その他	
			☆
目標3	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 入試制度については、「学部委員会」、「入試制度検討小委員会」などを中心に問題点を探り、改善を図っている。2013年度は、「指定校推薦入学制度」の問題点を改め、この制度による入学生の質を高め、アドミッション・ポリシーの徹底化を目指す改正が検討された。新制度は、2015年度入試から実施されるが、効果が期待できる。また入学定員、収容定員に実数を近づける努力は、「定着率検討委員会」を中心として行われている。またグローバル入試が2014年度入試から導入された。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か ここ数年は、定員に近い入学者数が維持されていたが、2014年度入試において、入学者数が予想を下回った。原因を究明し、定員を維持する努力が必要である。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 「指定校推薦入学制度」の改正に伴い、大幅に指定校を入れ替えている。本制度での入学者を維持するため、広報活動を強化する必要がある。	☆
		その他	
			☆
備考			☆

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【文学部】		単位	2010	2011	2012	2013	2014	備考
指標1	入学定員	名	770	770	770	770	770	
指標2	志願者総数	人	7,333	6,534	6,854	6,785	6,108	
指標3	合格者数	名	2,093	2,240	2,161	1,983	1,873	
指標4	入学者数	名	769	810	772	765	683	
指標5	志願者倍率	倍	9.5	8.5	8.9	8.8	7.9	志願者÷入学定員
指標6	入学定員に対する入学者数比率(5年間平均)	倍	1.05	1.06	1.04	1.03	0.99	
指標7	入学者に占める一般入試入学者の比率	%	56.3%	57.5%	58.4%	58.4%	54.3%	一般入試入学者数÷入学者数 (注)一般入試にセンター入試を含む
指標8	収容定員	名	3,080	3,080	3,080	3,080	3,080	
指標9	在籍学生数	名	3,408	3,372	3,300	3,228	3,139	
指標10	収容定員に対する在籍学生数比率	%	110.6%	109.5%	107.1%	104.8%	101.9%	在籍学生数÷収容定員
指標11	編入学生数	名	(1)	(1)	-	(1)	(4)	編入学定員がない学部でも、編入学生がいれば記入する。※その場合は()で記入
指標12	編入学定員	名	-	-	-	-	-	
指標13	編入学定員に対する編入学生数比率	%	-	-	-	-	-	
指標14	学部・学科ごとの退学者数	名	51	47	38			

※指標11…編入学定員を持たない学部の編入学生数は()で記入